

都 医 ニュース

NEWS

Vol. 689

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL. 03-3294-8821 (代)

定価 ■ 1部 77円

所信表明	01
東京都医師会 第300回 (定時) 代議員会／ 都知事から感謝状 ほか	02
新役員職務分担	03
底流／地区医師会長連絡協議会報告 ほか	04
みどりの広場 ほか	05
ふれあいポスト ほか	06
都医からのお知らせ ほか	07
地区医師会長からの一言	08



(前列左より) 稲葉監事、指田副議長、落合理事、蓮沼副会長、尾崎会長、平川副会長、土谷副会長、窪田議長、齋藤監事 (中央左より) 佐々木理事、川上理事、新井理事、目々澤理事、小林理事、鳥居理事、西田理事、弘瀬理事 (後列左より) 荘司理事、増田理事、市川理事、水野理事、大坪理事、小平理事

6月18日(日)に開催された東京都医師会第300回(定時)代議員会において、第5次チーム尾崎の面々全員が選任され、今後更に2年間の舵取りを任せていただくことになりました。5期・10年間の集大成として、気を緩めることなく、引き続き緊張感を持って、会長の職務にしっかりと向き合っていく所存です。

今回、12年以上共に活動してきた猪口正孝・角田徹両前副会長と別れるのは大変寂しいことではありますが、猪口前副会長は東京都病院協会会長に、また角田前副会長は日本医師会副会長に専念することによって、更にその力を発揮してくれることと期待しております。

そして、4年間医療保険担当理事として、また「TMA近未来医療会議」を平川博之副会長と共に中心となって設立、運営にあたってくれた黒瀬前理事にも感謝したいと思います。今後も、日本医師会常任理事として活躍されることを期待します。

3人が抜けたチームには、増田幹生北区医師会長、小平祐造花と森の東京病院院長、そして荘司輝昭立川市医師会理事に入っていたいただきました。3人とも素晴らしい能力を持った方たちなので、第5次チーム尾崎も、皆さんのご期待に応えられるものと自信しています。

新型コロナウイルス感染症の感染症状上の分類は5類になったものの感染者数は漸増しており、まだまだインフルエンザとは同等に扱えない厄



東京都医師会長 尾崎治夫

尾崎会長 所信表明

東京都医師会会長就任にあたり

介な本疾患に対する対策に手抜きは許されません。特に高齢者、基礎疾患を持つている方、透析患者の方、妊婦の方、障害を抱えるお子さんなどについては、引き続き感染が及ばないよう、また罹患しても迅速に医療が提供できるよう、東京都の行政と協力しながら適切に対処していき

ます。

私どもは2022年に「TMA近未来医療会議」を立ち上げ、この近未来の東京で予想される医療や介護における実態、問題点を議論してきました。社会保障の財源論といった大きなテーマも含め、解決すべき数多くの問題点を提示し、このたび書籍『近未来のTOKYO医療に希望はあるか?』を出版しました。今後、多くの方に読んでいただき、いろいろな分野の方、都民にもこの問題点を共有し、医師会と共に論じることができるよう2年間にしたいと思っています。

近未来の 東京の医療問題に 立ち向かう

少子超高齢社会の入り口とされている、団塊の世代の方がすべて75歳の後期高齢者となる2025年まで、あと1年半となりました。東京都では昨年も人口が4万4千人増えましたが、決して子どもが増えているわけではなく、道府県からの流入人口が増加しているのが現状です。

人口が減らないまま高齢化が進み、単身・夫婦のみ・高齢者の親と独身の団塊ジュニアとの同居世帯など、認知症やフレイルの進行によって要介護状態になった場合、家庭内での介護が難しい世帯が激増していくことが予想され

る東京。また、入院患者の8割が、65歳以上の高齢者で占められていくと予想されている東京。

私どもは2022年に「TMA近未来医療会議」を立ち上げ、この近未来の東京で予想される医療や介護における実態、問題点を議論してきました。社会保障の財源論といった大きなテーマも含め、解決すべき数多くの問題点を提示し、このたび書籍『近未来のTOKYO医療に希望はあるか?』を出版しました。今後、多くの方に読んでいただき、いろいろな分野の方、都民にもこの問題点を共有し、医師会と共に論じることができるよう2年間にしたいと思っています。

また、本書籍の中で提起した問題点の回答となるような具体策を、役員一同真剣に考えながら、できれば「第2次TMA近未来医療会議」を立ち上げて、再び喧々譁々の議論をしながら、まとめていければと考えています。

地区医師会、大学医師会、都立病院医師会の会員の皆さん、引き続きのご支援とご協力をお願いします。2年間全力で頑張っています。

東京都医師会 第300回(定時)代議員会

6月18日(日)、第300回(定時)代議員会が前日に続き真夏日となった外気温のなか、東京都医師会館で開催された。まず、慣例により仮議長として杉並区医師会の氏家久氏が指名され、更に仮議長から会議録署名人に港区医師会の坪田淳氏、江東区医師

会の浅川洋氏が指名された。4期目の会長職を終える尾崎治夫会長は「5月8日に新型コロナウイルス感染症の法律上の取り扱いが2類相当から5類に変更になったが、振り返ると流行初期は敵が見えず、検査体制の整備も間に合わなかったため試行錯誤で

闘ってきた。その過程において、検査センターの設立や病床の確保、宿泊療養やワクチン接種、HERI-SYSでの届出や自宅療養者への医療提供体制の確立などで会員の先方にご協力いただき、ご尽力に感謝したい」と謝辞を述べた。

また、「東京都は人口が増えている特殊な事情を持った地域で、将来の医療提供体制の整備が喫緊の課題であることから、今後の医療提供体制のあり方を検討する『TMA近未来医療会議』を立ち上げた。多くの学識経験者・有識者と議論を重ね、このたび本会議の提言をまとめた書籍を出版したが、次期も任せていただければならぬ2025年以降の東京の医療について具体的な医療政策を検討し、提示したい」と5期目への抱負が述べられた。

支援病院申請の医療機関から説明を受けるとともに、医療機関を対象に実施した地域連携に係る調査の結果をもとに、将来に向けた地域医療連携等について意見交換を行ったこと、②高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会では、安全運転の継続を目的として「実地医家における高齢ドライバーへの指導ガイド」を作成したこと、③新規に開業する医師が必要な制度を習得し、日常診療でも活用することを目的とした冊子「新規開業医のための保険診療の要点」を発行したこと、④医師のみならず各界の有識者を委員とする「TMA近未来医療会議」を設置し、診療報酬体系の見直しを含んだ提言を取りまとめ、行政や都民へ周知するために公開シンポジウムを開催したこと、などが報告された。

第2号議案 令和6年度東京都医師会会費賦課徴収に関する件
会費賦課額は年額でA会員8万8800円、B会員(31歳以上)3万4200円、(30歳以下)1万8000円、大学正会員1万2000円、大学特別会員6000円とする。これが賛成過半数で決議された。

第3号議案 一般社団法人国分寺市医師会承認を求むるの件
北多摩医師会から分離・独立する国分寺市医師会を、東京都医師会定款第2条第2項に規定する医師会とすることについて承認が求められ、賛成過半数で決議された。

最後に尾崎会長から、今回退任した猪口正孝・角田徹副会長、黒瀬慶理事に一人ひとりの思いの言葉がかけられ、それぞれの先生方が挨拶のなかで思い出を語り、閉会となった。

1名、理事14名、監事2名、医道審議委員11名について候補者数が定数と同数であったため投票は行われず、賛成過半数で選任された。

第300回(定時)代議員会役員等選挙結果
(※は新任)

代議員会議長
窪田 美幸(世田谷区)

代議員会副議長
指田 純(西東京市)

会長
尾崎 治夫(東久留米市)

副会長
土谷 明男(江戸川区)
蓮沼 剛(日本橋)
平川 博之(八王子市)

理事
定款第32条第6項による
落合 和彦(慈恵)

監事
齋藤 寛和(小金井市)
稲葉 貴子(杉並区)

医道審議委員
川村 益彦(町田市)
石川 辰雄(葛飾区)
高橋 由光(玉川)
大辻 正高(日本橋)
岡本 克郎(江東区)
岡本 聡(板橋区)
天木 一樹(武蔵野市)
瀧澤 ひとり(文京区)
熊谷 肇(目黒区)
木村 良(品川区)
小路 良(品川区)
南雲 晃彦(蒲田)

※敬称略 記載の順序は拙稿による



新たに選任された役員を紹介する尾崎会長

議長、副議長とも1名の立候補であったため投票は行われず、議長に窪田美幸氏(世田谷区)、副議長に指田純氏(西東京市)が選出された。

第1号議案 令和4年度東京都医師会決算に関する件
将来の会館建替・大規模修繕のため積み立てを開始したことなどの報告に続き、公益目的事業会計の経常費用計は法人全体の経常費用の94・



退任する役員からの挨拶

令和4年度庶務及び事業報告
各事業については、①地域医療構想調整会議を開催し、病床配分希望および地域医療

令和4年度庶務及び事業報告
各事業については、①地域医療構想調整会議を開催し、病床配分希望および地域医療

令和4年度庶務及び事業報告
各事業については、①地域医療構想調整会議を開催し、病床配分希望および地域医療

新役員職務分担、代議員会議長・副議長



会長
尾崎治夫



副会長
平川博之



副会長
蓮沼剛



副会長
土谷明男

担当分野	担当理事	職務内容 (令和5年6月18日現在)	担当分野	担当理事	職務内容 (令和5年6月18日現在)
■ 経理	 理事 市川菊乃	経理、税務、融資、医師年金、医療関連職種、外国人医療	■ 疾病対策	 理事 鳥居 明	感染症、HIV/AIDS、三・五者協、公害環境衛生、健(検)診事業、予防接種、母子保健、生涯保健、特定検診、タバコ対策、健康スポーツ医
■ 学術・教育	 理事 落合和彦	学術講演、倫理委員会、治験、勤務医、生涯教育、専門医制度、医学振興事業、次世代医師・女性医師・男女共同参画、医学生教育・啓発、医師臨床研修制度、母体保護、周産期救急	■ 疾病対策	 理事 川上一恵	感染症、HIV/AIDS、三・五者協、公害環境衛生、健(検)診事業、予防接種、母子保健、生涯保健、学校保健、学校医会、幼稚園医、保育園医、小児救急
■ 学術・教育	 理事 大坪由里子	学術講演、倫理委員会、治験、勤務医、生涯教育、専門医制度、医学振興事業、次世代医師・女性医師・男女共同参画、医学生教育・啓発、医師臨床研修制度、外国人医療	■ 医療支援	 理事 小林弘幸	医療安全対策、医療事故調査制度、精度管理、健康食品、患者相談窓口（診療情報提供）、医事紛争、医賠償保険
■ 学校保健	 理事 弘瀬知江子	学校保健、学校医会、幼稚園医、保育園医、難病	■ 医療情報	 理事 目々澤 肇	情報システム、調査研究、各種統計
■ 医療介護福祉	 理事 西田伸一	地域福祉、高齢者保健福祉計画、地域包括ケア、在宅医療、精神保健医療福祉、認知症、多職種連携、訪問看護ステーション、老健施設、介護保険	■ 地域医療	 理事 佐々木 聡	地域医療、保健医療計画、地域医療構想、地域包括ケア、医師会共同利用施設、介護保険
■ 出版・広報	 理事 水野重樹	マスコミ対応、都医雑誌・ニュース、都民公開講座、元気がいいね、産業保健・産業医	■ 地域医療	 理事 増田幹生	地域医療、保健医療計画、地域医療構想、地域包括ケア、医業経営、税制、医療法人、医療廃棄物、開業支援、エコ
■ 総務		代議員会・総会、理事会、医道審議会、会長連絡協議会、各種団体、リハビリ病院、企画調整、日本医師会、地区医師会、その他医師会連絡、会館管理、人事企画	■ 救急・災害	 理事 新井 悟	救急、災害医療、休日全夜間診療
■ 医療保険	 理事 荏司輝昭	医療保険、社保・国保審査、支払基金、国保連合会、自賠責、労災、監察医務、有床診療所	■ 救急・災害	 理事 小平祐造	救急、災害医療、休日全夜間診療、病院、リハビリ医療、地域医療構想
 監事 齋藤寛和		 監事 稲葉貴子		 代議員会議長 窪田美幸	
				 代議員会副議長 指田 純	
副会長職務分担 ■ 平川博之 副会長 ■ 蓮沼 剛 副会長 ■ 土谷明男 副会長					

底流

医療基本法の制定を望む

全ての医療行為および医業類似行為に関して、患者を保護する意味での医療基本法の制定が必要だ。

医療基本法を制定すべきであるとする構想は、これまでさまざまな団体からなされてきた経緯がある。歴史的には昭和43年に日本医師会が公表した「医療基本法(第一草案)」が最も古いものであると思われる。この日本医師会の提言を端緒として、厚生省(当時)も医療基本法案を示し、昭和47年には第68回国会に政府案として提出した。更に政府案の対案として、社会・公明・民社3党からも「医療保障基本法」が昭和48年の第71回国会に提出されたが、いずれも廃案となり、やがて「医療基本法」は議論されなくなった。全日本病院協会は「病院のあり方に関する報告書(2015・2016年版)」において、「医療基本法案(全日本版)」を提案している。日本医師会案では、医療を「患者の基本的権利を尊重し、疾病の治療、健康の支援に努める術(アート)」と定義している。全日病では、「医療とは、健康保持、健康増進、疾病予防、治療、リハビリテーション」を提案している。

患者側からの法制化の要望も古くからあり、平成3年には「患者の権利法をつくる会」が結成され、平成25年に医療基本法要綱案を作成した。保険医療機関および保険医は、健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律によって規制されている。そして保険診療に関する意見について(練馬区医師会)

する更に詳細なルールは、健康保険法の規定に基づき作成された、昭和32年4月30日厚生省令第15号「保険医療機関及び保険医療養担当規則」において規定されている。この法律および省令に基づき、保険医療機関および保険医は、厚生労働大臣より各種の指導(集団指導、集団的個別指導、新規個別指導、個別指導等)を受ける義務がある。そして、指導の結果、「監査要綱」に定める監査要件に該当すると判断した場合は監査の対象となる。最近の保険医療機関に対する指導に関しては、コロナ禍の影響もあり、特に新規個別指導においては、保険医療機関の開設から指導に至るまでに3年近くも経過しているような事例もみられた。また個別指導に呼ばれても、いろいろな理由をつけて毎回欠席している不誠実な保険医もいる。監査に關しても、現時点では強制力がないため保険医療機関取消が確実と思われるような場合は、全ての呼び出しを欠席する保険医もいる(この場合、返還金の算定ができないので当該保険医療機関の逃げ得となっている)。



パク会長から尾崎会長に記念品が手渡された

ソウル特別市医師会・東京都医師会意見交換会

6月5日(月)、東京都医師会館においてソウル特別市医師会と東京都医師会の意見交換会が開催された。ソウル特別市医師会からは、パク・ミョンハ会長以下5名、おおよび医師新聞記者1名が来館した。東京都医師会からは尾崎治夫会長以下役員16名、代議員会議長、参加した。はじめに、尾崎会長より挨拶があり「両国ともに少子高齢社会を迎え、また新型コロナウイルス感染症のような

交換会が開催された。ソウル特別市医師会からは、パク・ミョンハ会長以下5名、おおよび医師新聞記者1名が来館した。東京都医師会からは尾崎治夫会長以下役員16名、代議員会議長、参加した。はじめに、尾崎会長より挨拶があり「両国ともに少子高齢社会を迎え、また新型コロナウイルス感染症のような

尾崎会長より挨拶があり「両国ともに少子高齢社会を迎え、また新型コロナウイルス感染症のような

地区医師会長連絡協議会報告

令和5年6月16日(金)

◎都医からの伝達事項

(1) 高齢者施設に対する医療体制強化事業の7月以降の変更点について

新型コロナウイルス感染症の診療報酬上の特例の終了に伴い、初診からの電話診療が7月31日(月)から適用外となる。これに伴い標記事業については、7月からオンライン診療と往診のみになる。

- ◎地区医師会からの報告
- (1) 中央ブロック
 - (2) 城東ブロック
 - (3) 城西ブロック
 - (4) 城南ブロック
 - (5) 城北ブロック
 - (6) 多摩ブロック
 - (7) 大学ブロック
- ◎出席者による意見交換
- (1) 第154回日本医師会定例代議員会における代表質問について
 - (2) 1歳半健診における23区相互乗り入れの要望について
- (小石川医師会)

新地区医師会長の紹介があり、三輪隆子会長(西東京市)、関根秀明会長(稲城市)、藤井靖久会長(東京医科歯科大学)から挨拶があった。

感染症法の改正により、都道府県と医療機関の間で感染症対応に係る協定を結ぶことになる。これに伴い、東京都から各医療機関へ本協定締結

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方は「一報ください」

東京都医師会 広報学術課

03-33294-8821

6月13日(火)開催 東京都医師会 定例記者会見

―コロナ禍で得た教訓を今後の医療に生かす―

尾崎治夫会長は「コロナ禍で医療を提供する側・受ける側ともに教訓があり、それを今後の医療にどう生かしていくのかが重要になる。医療者側では、今後の新たなパンデミック等の有事の医療について検討する機会となり、2025年以降の地域包括ケアシステムにつながる自宅療養者への24時間の支援体制が構築された。また、かかりつけ医に関する議論も行われたが、東京都では各科の専門医がグループとなり、予防も含めて地域の人々を診ていくという体制を作っていくという。その際には、これまで都民のヘルスリテラシーを向上させるための活動をしてきたが、今後も健康や医療に関する正しい情報を見極め、理解して活用すること、自身に付けて、自分の健康を守ってほしい」と語った。

意識が高まり、また自己健康意識(セルフメディケーション)について考える機会にもなったと思う。東京都医師会では、これまで都民のヘルスリテラシーを向上させるための活動をしてきたが、今後も健康や医療に関する正しい情報を見極め、理解して活用すること、自身に付けて、自分の健康を守ってほしい」と語った。

184
みどりの
広場コロナ禍に地域の医療
機関同士が協働して
育まれたチーム力で
地域を支える地方独立行政法人東京都立病院機構
東京都立荏原病院院長 芝祐信

この4年間、都立荏原病院は東京都医師会の先生方と共に盾になって、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）から東京を守ってきました。COVID-19と対峙してきたのは医療従事者だけではなく、都民一人ひとりの協力も忘れることはできません。COVID-19については「終わりの見え

ない闘い」といわれてきましたが、当初はここまで長く続くと考えていませんでした。2021年1月「重点医療機関」に指定された当院は、実質「コロナ専門病院」となり苦悩と混乱の状況に置かれました。新型コロナウイルス患者の入院受け入れを最優先とし、新型コロナウイルス以外の入院や外来の

新患、救急の受け入れを一時休止しました。当院が「重点医療機関」の機能を発揮できたのは、ひとえに地区医師会の先生方の温かいご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

2022年に入り4回目の新型コロナウイルスワクチン接種が開始されましたが、重症化抑制効果が期待されるワクチンの

登場は当院の新型コロナウイルス対応の転機となりました。その年の冬の第6波ピークアウト後、一般診療患者の受け入れを再開しました。パンデミックの影響を最小限に留めるべく、新型コロナウイルス診療と両立させながら最大限の一般診療患者の受け入れを継続した結果、救急搬送件数も着実に上

向いてきています。ご尽力、ご協力いただいた地区医師会の先生方には、この場をお借りして御礼を申し上げます。

2023年5月8日、COVID-19は5類感染症に移行しました。これまでの法律に基づき、行政がさまざまな要請・関与をしていく仕組みから、感染対策について個人

の選択を尊重し、地域の皆さんの自主的な取り組みを基本とする対応に転換することになりました。当院は、5類移行後も地域の皆さんが安心して暮らせるように、行政的医療や高度・専門的医療、地域に必要とされる医療を更に充実させてまいります。

紙面を少しだけお借りして、当院のトピックを2点ご紹介させていただきます。1つ目は、2022年10月に新しい放射線治療装置（HyperArc 付きのTrueBeam）が導入され、定位放射線治療や強度変調放射線治療（IMRT）が可能になりました。

今後、呼吸同期肺定位治療も稼働予定です。放射線治療部門は常勤医師が加わり、より柔軟な対応が可能となりました。先生方が診察されて「放射線治療は可能か」「疼痛コントロールは？」と迷われた場合は、ぜひ当院へご相談ください。先生方のお力になれるよう努力いたします。2つ目は、当院の骨粗鬆症リエンジニアリングチームの取り組みが評価され、国際骨粗鬆症

財団（IOF）の優良施設認定で銀賞を獲得しました。入院早期の骨粗鬆症検査・治療と脊椎椎体骨折の経皮的椎体形成術（BKP）治療に積極的に取り組んでおり、整形外科医師複数名の体制で先生方からの依頼をお待ちしております。

2023年も引き続き、地域から信頼される地域医療支援病院になれるよう、地区医師会の先生方との連携を一層強化し積極的に患者を受け入れていきます。困難事例も地域医療を推進いたします。

掲 示 板

節英のすすめ
脱英語依存こそ
国際化・グローバル化
対応のカギ！

木村護郎クリストフ 編著



大田黒公園

大田黒公園
時を奏でる日本庭園

趣味の散歩

写真は杉並区荏原にある大田黒公園の銀杏並木である。その樹齢は80年を超えていると言われ、白い御影石が敷かれた園路は70mにも及ぶ。大田黒公園は荏原駅南口から徒歩で10分程の閑静な住宅街の中にある。日頃運動不足気味の私は少し遠回りして、杉並区医師

会の休日等夜間急病診療所がある杉並保健所の前を通るルート歩いて行くことが多い。公園名の「大田黒」は地名ではなく、音楽評論家の草分けであった大田黒元雄（1893～1979）の名前から付けられた。な

ぜなら、大田黒氏が前住地の庭園として開園した。春に

は満開になった八重桜が華やかな色合いを奏で、また晩秋に行われる紅葉のライトアップでは幻想的な光景が広がる。池には新潟県小千谷市から寄贈された宝石のような鯉がたくさん泳いでおり、水面には色とりどりの葉が映る。洋館造りの記念館には1900年製の

スタインウェイのピアノがあり、1918年に日本に2ヶ月ほど滞在したロシアの作曲家セルゲイ・プロコフィエフ（1891～1953）が大森山王の大田黒邸で使用したと言われている。時折このピアノを奏でるコンサートが開催されるので、次回は是非ともその音色を聴きに足を運びたい。

（杉並区医師会・酒井隆介）



HyperArc



IOF 優良認定施設銀賞

知っていますか？

健康経営

従業員等の健康管理を経営的視点から考えて戦略的に実践すること。従業員の活力向上や生産性の向上など組織の活性化をもたらす、結果的に業績向上や組織の価値向上へつながることが期待される。優良な健康経営に取り組む法人を顕彰する制度が設けられており、「ホワイト500」などが代表的である。労働力不足の顕在化を背景に、健康経営に取り組むニーズがより高まることが予想される。

日本にいたらず日本語で、外国へ行ったらできる限り相手国の言葉を使う努力をすることが、真の国際化のあるべき姿ではないか。著者の提唱する「節英五か条」と「りんご（隣語）をかじる」ことで相手への理解が深まり、英語だけでは知り得ない情報の共有と、日本人が苦手とされる外国語習得にも役立つのである。

発行▼萬書房
価格▼2200円（税込）

節英とは何か。本書では、英語の持つ共通語としての利便性を認めつつ、英語学習における壁や英語からのみ得られる情報の限界に触れ、英語以外の言語を学ぶ意義を説いている。

掲 示 板

節英のすすめ
脱英語依存こそ
国際化・グローバル化
対応のカギ！

木村護郎クリストフ 編著



玉川医師会

大久保正智

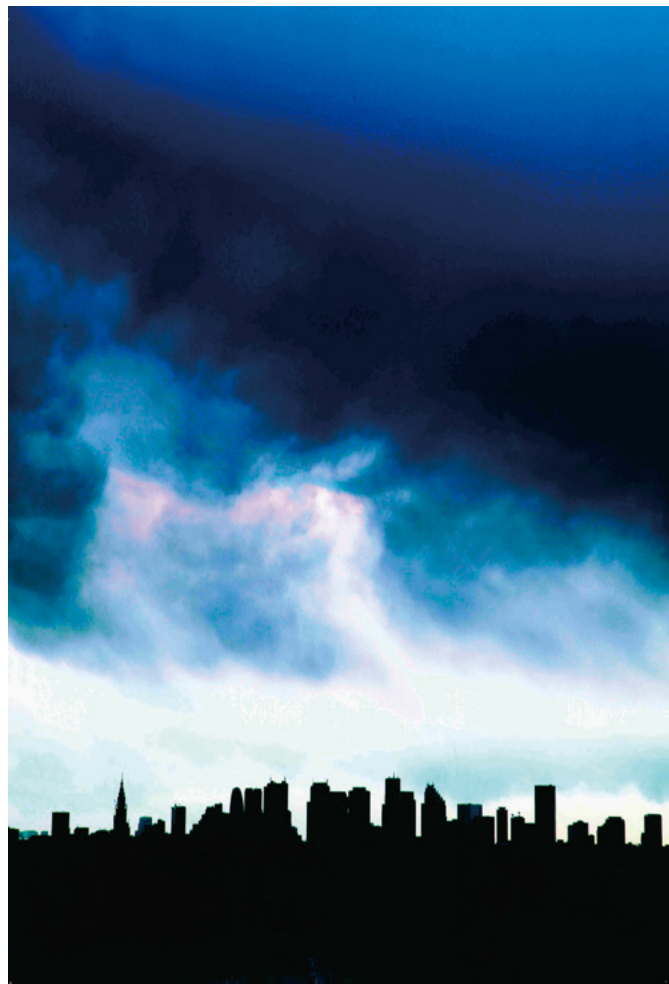
写真同好会

コロナ禍の玉川医師会写真同好会の活動は限られたものにならざるを得ませんでした。『玉医ニュース』の写真撮影、医師会館会議室での写真展示が主でした。個人での撮影、発表あるいはクリニックで作品を展示している先生もいらっしゃいます。

原稿のネタがありませんので、今回は自分のカメラ遍歴でも書こうと思います。家族の写真を撮ったり、臨床写真を撮ったりはごく普通にしていたのですが、写真に対する概念が変わったのは、リコーGRⅢに出合った時からです。2009年8月5日に発売されました。単焦点28mm、F1.9という明るさが画期的で結構センセーショナルな話題になり、勢いで購入した記憶があります。単焦点ということは、いうまでもありませんがズーム機能はありません。でも画像が圧倒的に綺麗でした。ズームがない分、自分が被写体に近寄れば良いという感じでした。GRⅢで撮る写真の魅力にはまっていくわけです。ということで、写真趣味というのは2009年がスタートなのです。このカメラにどのくらい思い入れがあるかというと、現在は生産中止になっていますが、未使用のものをもうワンセット持っていますというところでしょうか。

とはいっても、ズームとかマクロのレンズが欲しくなるのは人間の欲望というもので、抗えるものではありません。その時の僕の気分を察したのか、リコーからGXRという機種が発売されたのです。ミラーレス一眼レフに分類されますが、画期的なことはレンズを交換するだけではなくレンズとそれをコントロールするユニットが一体となって交換できるというものだったことです。リコーの回し者ではないですが、これにも飛びつきました。

その頃、もう1つの目覚めがありました。フィルムカメラです。デジタルカメラでバシバシ撮るのもまあ楽しいのですが、一昔前に戻ってフィルムカメラで一発必中、気合を入れて撮るのも悪くないかなと思ったわけです。まあそんな時なんというタイミングでしょうか、デパートの催事場で世界の中古カメラという催し物があったのです。そこで購入したのがYASHICAの二眼レフ。1年ぐらいいは楽しんでいたのですが、なんとなく物足りなくなっていました。その時にまた悪魔のような、世界の中古カメラ。購入してしまいました、HASSELBLAD。新品を買うと100万円以上するものが10分の1以下。これは結構使い倒しました。フィ



雨雲

練馬区医師会 本多一義

一点の雲もなく快晴の新宿上空に突然雨雲が広がりました。その後の模様はご想像にお任せ致します。

ルムの挿入から独特で雰囲気盛ります。いつもカラーとモノクロと2つ用意していました。最低でも月に1本は撮っていましたので、カメラのキタムラの常連でした。ただ、このカメラ重いんです。1.5kgあります。デジタルカメラも持っていますから大変です。

そんなこんなで1台でなんでもこなせて、持ち運びも楽なやつ、ということでミラーレス一眼CANON EOS M3、レンズはTAMRON 18-200にしました。

いろいろ書きましたが、持ち運びのことを考えると、もはやメインはiPhone13です。

カメラはタンスの肥やし状態ですが、捨てられません。見ているだけでちょっと幸せな気分になるからです。

(玉医ニュース No.671 令和4年4・5月合併号から抜粋)

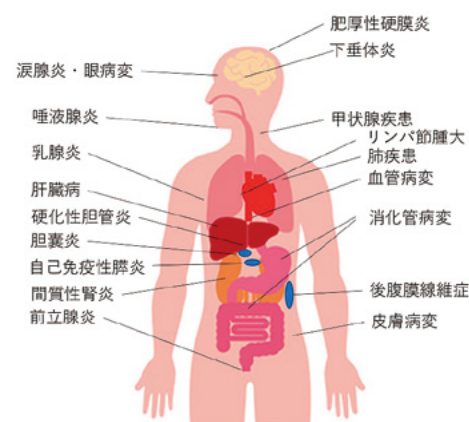
世界初の「IgG4関連疾患センター」を立ち上げました！

IgG4関連疾患は、都立駒込病院から2003年に提唱された新しい疾患です。同時性および異時性に諸臓器に腫大、肥厚や腫瘤形成を来す全身性疾患で、血中IgG4値の上昇と病変部への多数のIgG4陽性形質細胞浸潤を特徴とします。悪性腫瘍との鑑別が重要であり、生検が行われることが多いですが、生検で十分な検体が採取できない場合や生検が困難な臓器では診断にしばしば難渋します。治療面ではステロイドが奏功しますが、再燃率が高く、またステロイド不応・依存例も存在し、難病に指定されています。

比較的稀な疾患ですが、関東地区では本疾患を専門に診療する医師が少ないことから、当院へは難治例を含め多くの患者さんが紹介されてきます。病変はさまざまな臓器に及び、院内の多くの科が診療に係るので、組織横断的に対応する必要があります。

本疾患に関わることの多い診療科（消化器内科・膠原病科・耳鼻咽喉科・眼科・泌尿器科・総合診療科・放射線科・病理科）において、主な担当医を決めて密な連携をとることにより適切な診療が可能になるため、このたび世界で初めて「IgG4関連疾患センター」を立ち上げました。診断や治療が困難な例に適切に対応する一方で、症例を集積して新たな診断・治療法の開発研究に取り組んでいきます。

東京都立病院機構 がん・感染症センター都立駒込病院名誉院長 IgG4関連疾患センター長 神澤輝実



IgG4関連疾患の諸臓器病変

無 声 拝 聴

園医

地域の保育園の園医を引き受けることは、地域医療を担う診療所小児科医にとって大事な役目である。役目と同時に、小児科を磨くうえで大事な場でもある。毎年、年度初めに行政から発令通知書をいただく。その従事内容には、保育所入所児童の健康診断および保健衛生指導と書かれている。墨田区では、春秋の全入所児の健康診断が義務である。0歳児の健診は更に多い。1力所の園医であれば負担にはならないが、地域の小児科専門医はそんなに多くない。3、4力所の園医を引き受けるのは普通である。自分の診療所の診療、予防接種、健診と園医の仕事となれば、時間的余裕はそんなにない。しかし、地域の小児医療を支える立場として、前向きに対応する必要がある。

2歳児、…5歳児と診ていくと子どもの成長や発達を実感できる。身長や体重などの量的変化の成長では、いわゆる大きい、小さいがよくわかる。機能的変化の発達では、2歳までにほとんどの子が歩いている。健診時に泣く子はほとんどが2歳までで、4歳や5歳で泣いている子どもは緊張の強い子で、健診の場が読めない子どもである。保育園にいる子どもは健康に問題ない子が当たり前であるが、当たり前であることはきちんと診察していえることである。

問題ないと思われる集団の健診は、症状を訴えてくる診療と違い、ずさんになる危険がある。心雑音は聴診してわかること、肝臓が肥大しているのは腹部を触診してわかること。保育園の健診、されど健診である。（鈴木 洋）

再びサル痘(エムポックス)、そしてワクチン

2022年8月号でも「サル痘」を紹介したが、再び紹介する。2022年5月頃から急速に患者数が増加したサル痘は、2022年1月1日～8月7日に89カ国・地域から27,814例が報告されたが、そのほとんどは欧米での発生だった。2022年7月21日にWHOは、COVID-19などと同じくPHEIC（国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態）宣言を行った。

感染者に「サル」にまつわるような印象を与えたり、人種差別につながる事態が発生したこと、自然宿主はサルではなくアフリカのジリス等の齧歯類と思われることなどから、2022年11月28日にWHOは名称を「mpox」（エムポックス）に変更した。国内でも感染症法上の4類感染症「サル痘」となっていたが、2023年5月26日に「エムポックス」に変更された。

欧米では2022年7～8月をピークとして減少傾向となり、2023年5月11日にWHOはPHEIC宣言を解除した。2022年1月1日～2023年5月2日で世界の確定例は87,301例、そのほとんどは米国で、次いで欧州となっている。一方、国内では2023年に入り増加傾向となり、2022年5月2日～2023年5月2日で129例が報告されている。

mpoxの予防には天然痘ワクチン（種痘）が有効で、故・橋爪壮博士ら（当時は千葉県血清研究所所属）が開発した世界で最も副反応の少ない天然痘ワクチンであるLC16m8株（現在はKMバイオロジクス株式会で製造管理）もWHOが推奨するmpoxワクチンとなっている。

本ワクチン接種者ではmpoxに対する中和抗体が誘導されていること、ワクチン接種を受けたサルにはmpoxの発症予防効果が見られたこと、過去の1万例規模の治験では大きな懸念となる重篤な副反応は見られなかったことなどが報告されている。

種痘接種者では、20年後でも半数程度は抗体が保持されるが、これらがmpoxの発症をどの程度実際に防げるかは不明である。

（文責：岡部信彦）

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ
INFORMATION日臨内「かかりつけ医のためのWEB講座」
～スペシャリストがジェネラリストになるために～

問合先

日本臨床内科医会 E-mail: jpa@event-mhlab.jp

日時▶ 7月26日(水) 19時30分～21時45分

形式▶ WEB講演

スポンサードセミナー▶ 「内科医も知っておくべき骨粗鬆症診療の重要性と進め方」金沢一平（かなざわ内科 糖尿病・骨粗しょう症クリニック 院長）

WEB講座▶ ①「片頭痛の治し方～頭痛難民を救う3つのポイント～」樋口正晃（日本臨床内科医会 学術部 脳・神経班）②「自律神経障害と血圧について～起立性低血圧、失神、薬の副作用～」長尾 信（日本臨床内科医会 学術部 循環器班）③「慢性腎臓病（CKD）における地域連携と高血圧診療」磯崎泰介（日本臨床内科医会 学術部 腎・電解質班）

取得単位▶ 日医生涯教育制度2単位（cc：77、30、33、74）

申込方法▶ 右記よりお申し込み、または当会ホームページをご覧ください。

参加費▶ 無料



医師国保からのお知らせ

特定健診を受けましょう！

～地域医療を支える皆様の健康が地域の元気を創ります～

- 40～74歳の方へ受診券をお送りしています。健康保持増進のため、是非受診してください。健診費用は組合が全額負担します。従業員や家族への自家健診も可能です。

- 第1種組合員とその配偶者の方は、人間ドック等を受診した際の健診結果を提出していただきますと、かかった費用の一部を助成します。

※「特定健診」との併用はできません。

詳しい内容、申請方法等はホームページをご覧ください
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6434（業務課）

日本医師会
医師年金 スマホ・パソコンで簡単手続き

加入資格は日本医師会会員で64歳6カ月未満の方です
（申込みは、満64歳3カ月までをお願いします）

医師年金 検索

アニメーションで仕組みを確認

シミュレーションで保険料を試算

一括払専用加入申込書プリントアウトで申込み（保険料のお支払いは後日ご案内します）

※重要事項説明書をよくお読み下さい（申込書の3、4ページに記載）

お問い合わせ先

日医 年金・税制課 ☎ 03-3942-6487(直)（平日 9時半～17時）

都医 HP・Eメール

■ ホームページアドレス

■ Eメールアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>

jimu@tokyo.med.or.jp

地区医師会長からの一言

コロナ禍から医師会が学んだこと

八王子市医師会長 鳥羽正浩



医師会は、とかく利権団体だの圧力団体だのとマスコミに揶揄されます。そして、同じ医療業界の中にもマスコミの影響を受けてしまっている方がおり、大変残念に思います。医師会の仕事に一部でも携わったことがあれば、その活動のほとんどが市民の健康を守るために費やされていることが分かります。いうまでもなく、地区医師会は市区町村の行政や保健所と協力しながらその役割を果たしています。一方で、地域医療を守る会員の先生方のために、所属する病院・診療所を問わず全ての医療機関が最適な医療提供体制を構築・維持し、医療制度を円滑に、かつ効率的に運用するために活動しています。「市民の生命と健康を守る」という本義を忘れず、会員の先生方に「医師会に所属していて良かった」と思ってもらえるように職責を果たしていくと同時に、マスコミに貼られた悪いイメージのレッテルを少しでも払拭できるように、今後医師会は今まで以上に社会貢献活動等にも力を入れるべきだと考えています。

会長職を拝命する以前からのコロナ禍の3年間、感染症担当理事（本来の専門は感染症とはかけ離れておりますが）として、コロナ禍における地域医療提供体制の構築と運用に携わってきました。新型コロナウイルス感染症に対する地域の取り組みにおいては、各地区医師会や東京都医師会が非常に大きな力を発揮してきましたが、八王子市における私自身の経験では、有効な対策を講じるうえで最も重要な役割を果たしたのは、医師会と行政・保健所との連携、医療機関同士の連携と、それに加えて高齢者施設や教育機関等との多職種間の連携だったと考えています。感染症対策に限っ

た話ではなく、以前に比べて医師の、ひいては医師会の関与しなければならぬ責務は多岐にわたり、行政や保健所だけでなく、多職種が協働で事に当たる必要性も増しています。コロナ禍における経験から、その連携こそが医師会がその使命を果たすうえで最も大切なものと痛感しています。

これまでも、在宅医療や介護の現場においては多職種連携の場が構築されてきましたが、今後はこれまで地域において十分な連携が図られてこなかった学校保健等の分野においても、多職種連携を強化していきたいと思います。教育委員会のもとより、養護教諭をはじめとする学校教育の現場に関わる多職種の方々と学校医との間で連絡会を開催し、健診をはじめとする学校保健業務の共通認識と理解を深めると同時に、学校医が中心となって医療のプロとしての提言を行うことにより、学校保健に携わる全ての方々と教育現場で現実に行き起きている医療に関わる問題について情報を共有し、児童にとって最適な対策を地域で構築することができれば幸いと考えています。

最後に個人的な話ですが、もともと読書が趣味で、特に中国の古典に関する小説を愛読しています。古代中国の商（殷）王朝の始祖である湯王の教えといわれる、「諫めの言葉を聴き入れて逆らわない」「古人の教えを遵守する」「人の上に立っては下情に通ずる」「人の下に居ては真心を尽くして仕える」「他人に対しては完全さを求めず、自分自身を至らぬものとして律する」の言葉を事務仕事用の机の前に貼っています。その教えを忘れることなく、「日々に新たなり」の気持ちを忘れず職務に臨んでまいり所存です。